

第三此ノ特典ハ株ヲ以テ組成スルト否トヲ問ハス一般ノ不定資本會社ニ附與セラル、者ナリ社員ノ入社退社アリ隨テ資本ノ増減アルモ一々此ノ變更ヲ公告スルニ及ハス然レトモ此ノ規則ニハ二個ノ制限アリ第一、會社ノ管理者退社スルトキハ之ヲ公告スルコトヲ要ス蓋シ管理者ハ役員ノ資格ヲ以テ社外人ニ接スル者ナリ然ルニ其退社ヲ公告セサルトキハ社外人尙ホ從前ノ役員ヲ以テ現在ノ役員ナリト信スルノ恐レアレハナリ第二、會社ノ資本ハ最初公告シタル資本額ノ十分ノ一ニ下ルコトヲ得ス是レ社外人ヲシテ會社ハ常ニ少ナクトモ公告シタル資本ノ十分一ヲ有スルヲ知ラシメテ幾分カ安堵ノ心アラシメンカ爲メナリ○又會社自ラ信用ヲ博センカ爲メニ其資本ハ最初公告シタル額ノ五分ノ一若クハ四分ノ一ヨリ減スルコトナシト定ムルコトヲ得ヘシ又退社スル者ハ退社シタルカ爲メニ負債ノ負擔ヲ全ク

免ル、コトナシ即チ退社以前ノ負擔ハ五年間之ヲ負擔シ其以後ノ負債ハ全ク其負擔ヲ免カルヘシ以上ハ不定資本會社ニ附與シタル特典トス斯クノ如ク不定資本會社ニ特典ヲ附與シ此會社ヲシテ若干ノ通常規則ヲ守ルコトヲ免カレシメタルヲ以テ世ノ狡猾者流ハ如何ナル會社ヲ設立セントスルモ皆之ヲ不定資本會社トナシテ此特典ヲ得ント企ルノ恐レナキ能ハス是レ豫メ防カザルヘカラス然レハ則チ如何シテ可ナラン乎一千八百六十七年ニ不定資本會社ヲ制定スルニ當リテ或者ハ此ノ狡猾手段ヲ豫防センカ爲メニ二個ノ條件ヲ設ケテ不定資本會社ノ成立ヲ制限センコトヲ主張セリ第一、此會社ハ消費會社資本會社又ハ製造會社タラサルヘカラス其他ノ會社例ヘハ運輸會社又ハ賣買取引ヲ主トスル商業會社ノ如キハ不定資本タルコトヲ得ス第二、不定資本會社ハ職工ノ間ニ

アラサレハ成立スルコトヲ得スト然レトモ此ノ説ハ遂ニ採用セラレサリキ蓋シ職工ト他ノ人民トノ間ニ區別ヲ立ツルハ現時ノ風潮ニ違背スルノミナラス不定資本會社ノ特典ヲシテ獨リ職工ノ專有スル所トナシ他ノ貧小ノ民ヲシテ此特典ニ浴スルコトヲ得サラシムルハ頗ル不公平ノ處置タルヲ免カレサルヲ以テナリ是ニ於テ立法者ハ專ラ投機者流カ不定資本會社ヲ設立シテ世ヲ害スルノ弊ヲ豫防スルノ方法ノミヲ設ケテ其他ヲ問ハサリキ故ニ今日ニ在リテハ職工タルト否トヲ問ハス又其營マントスル業ノ如何ヲ問ハス不定資本會社ヲ成立スルコト全ク人々ノ自由ナリ但シ一千八百六十八年一月二十二日ノ閣令ヲ以テ無名會社ニシテ保險ノ業ヲ營ム者ハ不定資本會社タルコトヲ得スト定メタリ然レハ則チ立法者カ投機者ヲ豫防センカ爲メニ設ケタル方法ハ如何

第一則○會社成立ノトキ會社契約書ヲ公告スルニ當リ此ノ會社ハ不定資本會社ナリト云フコト及ヒ會社ノ資本ハ若干ノ數ヨリ減スルコトナシトノコトヲ公告スルヲ要ス是レ社外人ニ告知センカ爲ナリ

第二則○會社株ヲ以テ成ルトキハ其株ハ必ス記名株タルヲ要ス是レ最モ投機ヲ防クノ方法トス蓋シ株式賣買ノ最モ劇シキハ無名株ナルニ因リ無記名株ヲ禁スルトキハ大ニ投機賣買ヲ減殺スルコトヲ得ヘケレハナリ

第三則○此會社ニ限リ無用又ハ有害ナリト認ムル社員ヲ退社セシムルコトヲ得是レ社員中投機者ノ類アルトキ之ヲ斥除スルコトヲ得セシメンカ爲メナリ

第四則○最初ノ資本ハ二十万法ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ如ク資本ニ制限ヲ置クトキハ彼ノ莫大ノ費用ヲ要スル詐僞手段ヲ行フニ堪ユ

ルカ如キ大會社ノ設立ヲ防クコトヲ得レハナリ蓋シ不定資本會社ハ最モ投機者流ノ狡獪手段ヲ行フニ便ナリ何トナレハ株ノ金額ノ少ナキニ隨ヒ多クノ愚民ヲシテ株ヲ買ハシムルニ易キカ故ニ株ノ金額ノ少ナルハ愚民ヲ瞞着シテ金ヲ募集スルニ便利ナレハナリ然レトモ愚民ヲ瞞着スルニハ莫大ノ資金ヲ要スルカ故ニ此ノ目的ヲ以テ會社ヲ立ントスル者ハ莫大ノ資本ヲ募集セントスルハ必然ナリ是レ最初ノ資本ヲ制限シテ二十万法ヲ超過スルヲ得スト定メタル所以ナリ此ノ如ク最初ノ資本ハ二十万法ヲ超過スルコトヲ得サントモ是唯創立ノトキノ資本ヲ制限シタルノミ故ニ會社ハ其翌年ヨリ毎年二十万法ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

第二附録○商業會社ノ形体ヲ裝フタル普通會社○抑モ普通會社ヲ支配スル規則ハ大業ヲ營ムニ於テ甚タ便ナラス就中普通會社ハ無形人

コアラストノ原則ハ實際ニ不便ヲ來スコト少クニアラサルナリ然レトモ或ル大業ヲ營マンカ爲メニハ商業會社ヲ設立スルコト能ハスシテ普通會社ヲ設立セサルヘカラサルコトアリ何トナレハ其事業商事ニ屬セスシテ民事ニ屬スルトキハ之ヲ營マンカ爲メニ設立スル會社ハ自ラ普通會社ヲラサルヲ得サレハナリ例ヘハ鑛山開墾ノ業ノ如キハ民事ニ屬スル所ノモノナリ故ニ會社ヲ設立シテ鑛業ヲ營ムトキハ此會社ハ自ラ普通會社ヲラサルヲ得サルナリ然レトモ鑛業ノ如キハ莫大ノ資本ヲ要ス故ニ尋常普通ノ會社ノ規則ハ此ノ如キ大業ヲ營ムニ甚タ不便ナリ因テ此ノ如キ會社ハ商業會社ノ形体ニ則リ其組織ノ方法ヲ商業會社ノ如クスルコトヲ得ヘシト定メタリ例ヘハ鑛業會社ノ如キハ株券ヲ發シテ資本ヲ募ル等凡テ無名會社ニ倣フコトヲ得ルナリ然レトモ此ノ如キ普通ノ會社ニシテ商業會社ノ組織ニ則ルハ果

シテ法律ノ許ス所ナリヤ此疑問ハ往時曾テ一タビ發シ一時議論紛起セシカトモ今日ハ既ニ普通會社ニシテ商業會社ノ組織ニ則ルコトヲ許ストノ說ニ一致セリ況ンヤ咸ナ場合ニ於テ律上之ヲ許スト明文アルヲヤ千八百十年四月二十日ノ法律第八條ニ曰ク(前畧)然レトモ鑛業ヲ營ム會社ノ株式又ハ利益(エンテレー)ハ民法第二百二十九條ニ從ヒ動産ナリト見做スヘシト此ノ箇條ニ因ルトキハ彼ノ普通會社ナル鑛業會社ハ株式ヲ發行スルヲ得ルコトハ現ニ法律ノ許ス所ナリ然ラハ則チ普通會社ハ凡テ株券ヲ發行スル等商業會社ノ組織ニ則ルヲ得ル亦疑チ容レサルナリ普通會社ニシテ商業會社ノ形体ヲ裝ヒタルトキハ如何ナル規則ヲ以テ之ヲ支配スヘキヤ則チ商業會社ノ規則ヲ適用スヘキヤ將タ普通會社ノ規則ヲ適用スヘキヤ

第一原則○民事ニ屬スル事業ヲ營ム會社ニシテ商業會社ノ形体ヲ裝

フモ之レカ爲メニ商業會社トナルコトナシ○往時久シク左ノ說ヲ爲ス者アリ曰ク普通會社ニシテ商業會社ノ形体ヲ裝フトキハ全ク商業會社トナルヘシト是レ誤リナリ何トナレハ會社ノ商業會社タルト普通會社タルトハ其執ル所ノ事業ニ因リテ之ヲ判別スヘク決シテ其形体ノ如何ニ因リテ之ヲ判別スヘカラサレハナリ故ニ法律ニ明文ナキ以上ハ此會社ヲ以テ商業會社ナリト云フコトヲ得サルナリ此會社ハ普通會社ナルヲ以テ身代限ヲ爲スモ倒産又ハ分散チナスコトナク又其所爲ハ民事ニ屬シ商業ニ屬セス故ニ之ヲ管轄スル裁判所ハ商事裁判所ニアラスシテ民事裁判所ナリトス然レトモ商業會社ノ形体ヲ裝ヒタルヨリ生スル結果亦少カラサルナリ即チ左ノ如シ

第二原則○商業會社ノ形体ヲ裝ヒタル會社ニハ商業會社ヲ支配スル規則中ニテ會社ノ組織ニ關スル規則ヲ適用スヘシ即チ此會社ハ其組

織ヲ商業會社ニ則リタルカ爲メニ會社ノ契約ヲ公告スヘシ又其株券ヲ發行スルトキモ商業會社ノ規則ニ從ヒ悉皆株券ノ發行ヲ終リ及ヒ各株ノ金額ノ四分ノ一以上納リタル上ニアラサレハ營業ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ大審院ハ此第二原則ニ多少ノ制限ヲ置ケリ(千八百七十三年十一月二十八日大審院判決)此原則ノ重要ナル一結果ハ商業會社ノ形体ヲ裝ヒタル會社ハ商業會社ノ如ク無形人タリト云フコト是ナリ

第三附錄○外國ノ會社

以上解説シタル規則ハ佛國內ニ設立スル凡テノ會社ニ適用スヘキ者ニシテ復タ其會社ノ佛國人ヨリ組成セラル、ト外國人ヨリ組成セラル、トヲ問ハサルナリ而シテ佛國內ニ設立セラレタル會社ハ之ヲ名ツケテ佛國ノ會社ト云フナリ然レトモ外國ニ於テ設立シタル會社カ

佛國內ニ於テ會社ノ名義ヲ以テ契約ヲナシ又ハ訴訟ノ對手トナラントスルトキハ之ヲ處置スルコト如何外國ノ會社ニシテ合名會社又ハ差金會社ナルトキ及ヒ之ニ類似シタル會社ナルトキハ之ヲ一個ノ無形人ト見做シ佛國ニ於テ會社ノ名義ヲ以テ契約ヲナシ又ハ訴訟ノ對手トナルコトヲ許シタルハ法典ノ制定以來常ニ然ラサルハナシ然レトモ外國ノ會社ニシテ無名會社ナルトキハ佛國ニ於テ會社ノ名義ヲ以テ契約ヲナシ又ハ訴訟ノ對手トナルコト能ハサリキ蓋シ一千八百六十七年以前ニ在テハ總ヘテ無名會社ハ政府ノ許可ナクシテ設立スルヲ得ス今外國ノ無名會社ヲシテ自由ニ會社ノ名義ヲ以テ佛國內ニ於テ契約ヲナシ訴訟ノ對手トナルコトヲ許ストキハ是レ外國ノ會社ヲ處スルコト佛國ノ會社ヲ處スルヨリモ寛ナルナリ是レ外國ノ無名會社ヲシテ佛國內ニ於テ契約ヲナシ訴訟ノ對手トナルコトヲ許

サ、リシ所以ナリ一千八百四十七年ニ當リテ白耳義ノ一裁判所ハ佛國政府ノ許可ヲ得テ佛國ニ設立シタル一無名會社カ其會社ノ名義ヲ以テ白耳義裁判所ニ訴訟ヲナスノ權ヲ拒メリ其理由ニ曰ク佛國裁判所ハ白耳義ノ無名會社カ佛國裁判所ニ出訴スルコトヲ拒メリ故ニ白耳義ノ裁判所モ亦佛國無名會社カ白耳義裁判所ニ出訴スルヲ拒ムト是ニ於テ佛國ノ無名會社ニシテ白耳義國ニ關係ヲ有スル者ハ皆爭フテ佛白兩國ノ間ニ條約ヲ結ヒ佛國ノ無名會社ヲシテ白耳義裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシメンフテ政府ニ請求セリ佛蘭西政府ハ一千八百五十五年ニ至リ白耳義政府ト條約ヲ結ヒ兩國ノ無名會社ハ他國ニ於テ同一ノ位置ヲ有スヘシト定メタリキ其後佛國ノ無名會社ハ此條約ニ因リテ白耳義ノ裁判所ニ出訴シタリシニ白耳義ノ裁判所ハ尙ホ之ヲ拒絕シタリ其理由ニ曰ク現時佛國ノ裁判例ハ白耳義ノ無名會社

カ佛國裁判所ニ出訴スルコトヲ許スト雖モ法律ニ於テ現ニ此事ヲ許スニアラサル以上ハ之ヲ以テ白耳義ノ無名會社カ佛國ニ於ル確定ノ位地ナリト云フコトヲ得ス故ニ佛國ニ於テ法律ノ制定セラレサル間ハ白耳義裁判所ハ佛國ノ無名會社ヲシテ白耳義裁判所ニ出訴スルコトヲ得サラシムルモ條約ニ背反スルコトナシト是レ一千八百五十七年五月三十日ノ法律ノ制定ヲ要シタル所以ナリ此布告ニ因ルトキハ白耳義政府ノ許可ヲ得タル會社ハ佛國ニ於テ其會社ノ名義ヲ以テ事ヲ行フコトヲ得ヘシ又政府ハ立法官ノ承諾ヲ經ス直チニ他ノ外國ノ會社ニ同一ノ權利ヲ附與スルコトヲ得ヘシ政府ハ此ノ法律ニ因リテ他ノ外國ト條約ヲ結ヒタルコト許多ナリ英國ノ如キ亦其一ナリ此法律カ一舉ニシテ凡テ外國ノ會社ニ同一ノ權利ヲ許サ、リシハ此ノ如キ權利ヲ許スニハ先ツ其外國ノ會社法ヲ知

悉シ其國ノ會社ハ果シテ完全ナルモノナリヤ否ヤヲ知ルコトヲ要シ
 又一方ニ於テハ佛國ニ於テ或外國ノ會社ニ此權利ヲ附與スルニハ又
 其外國ヲシテ其ノ權利ヲ佛國ノ會社ニ附與セシメサルヘカラス而シ
 テ之レカ爲メニハ双方政府ノ間ニ條約ヲ結ハサルヘカラサル等ノ手
 續ヲ履ムコトヲ要スルカ故ナリ一千八百六十七年ノ法律ニ因レハ無
 名會社ハ政府ノ許可ヲ經スシテ設立スルコトヲ得ヘシ是ニ於テ乎左
 ノ疑問起レリ曰ク抑モ外國ノ無名會社カ佛國政府ノ許可ヲ得ス佛國
 ニ於テ會社ノ名義ヲ以テ事ヲ行フコト能ハサルハ他ナシ外國ノ會社
 ハ佛國ノ會社ヨリモ寛大ノ處置ヲ受ルノ不公平アリシカ故ナリ何ト
 ナレハ佛國ノ無名會社ハ政府ノ許可ナクシテ設立スルコトヲ得サリ
 シヲ以テナリ然レトモ今ヤ佛國ノ無名會社ハ復タ政府ノ許可ナクシ
 テ設立スルコトヲ得ヘシ然ラハ則チ凡テ外國ノ無名會社モ亦同シク

佛國政府ノ許可ヲ得スシテ佛國ニ於テ會社ノ名義ヲ以テ事ヲ行フコ
 トヲ得ルヤト曰ク然ラス一千八百六十七年ノ法律ハ外國ノ無名會社
 ニ關係ナキモノナリ即チ一千八百五十七年五月三十日ノ法律ハ依然
 トシテ存シ凡ソ外國ノ無名會社ハ佛國政府ノ許可ヲ得スシテ佛國內
 ニ於テ會社ノ名義ヲ以テ事ヲ行フコト能ハサルナリ蓋シ佛國ノ無名
 會社カ其設立ノトキ得ルコトヲ要スル許可ト外國ノ無名會社カ佛國
 内ニ於テ會社ノ名義ヲ以テ事ヲ行フカ爲メニ得ルコトヲ要スル許可
 トハ全ク其趣ヲ異ニセリ即チ甲ハ一ノ無名會社カ佛國內ニ設立セラル
 、毎ニ政府ヨリ之ヲ許可スルニ在リテ乙ハ外國ト條約ヲ結ヒ凡テ某
 ノ國ノ會社ハ何ノ會社タルヲ問ハス佛國ニ於テ其會社ノ名義ヲ以テ
 事ヲ行フコトヲ得ヘシト一舉ニ之ヲ許可スルニ在リ且ツ夫レ此二個
 ノ許可ハ互ニ相混スヘカラサルノ一大理由アリ蓋シ一千八百六十七

年ニ於テ佛國ノ無名會社ヲシテ政府ノ許可ナク設立スルコトヲ得セシメタルハ他ナシ別ニ規則ヲ設ケテ此會社ヲ檢束シタルカ故ナリ然レトモ彼外國ノ無名會社ハ果シテ之ヲ檢束スルノ規則アリヤ是レ豫メ知ルコト能ハサルナリ然ラハ則チ外國ノ無名會社カ佛國ニ於テ會社ノ名義ニテ事ヲ行フカ爲メニ特ニ政府ノ許可ヲ要スル事ハ之ヲ廢止スヘカラサルナリ故ニ曰ク一千八百六十七年ノ法律ハ外國ノ無名會社ニ關係セスト外國ノ會社佛國政府ノ許可ヲ得ルトキハ佛國ニ於テ契約ヲナシ及ヒ裁判所ニ出訴スルノ權ヲ得ヘシ然レトモ佛國ニ於テ其株券ヲ發行スルコト能ハサルナリ外國ノ會社佛國政府ノ許可ヲ得タルトキハ此會社ニ就テ爭訟ノ起リタル場合ニハ其本國ノ法律ヲ適用スヘキヤ或ハ佛蘭西ノ法律ヲ適用スヘキヤトノ一疑問アレトモ是レ國際私法ニ屬スル問題ナレハ爰ニ説カス

第四附錄○共分會社

共分會社ハ其發生既ニ久シ矣商法ヲ講説シタル古昔ノ記者彼ノボチエ氏ノ如キ皆之ニ論及セサルハナシ然レトモ一千六百七十年ニ制定セラレタル法律ハ此會社ニ關シテ曾テ云フ所ナカリキ又今日現行ノ商法中ニモ共分會社ニ關スル箇條ハ僅カニ商法第四十七條乃至第十條ノ四條ニ過キス而シテ彼ノ會社ノ種類ヲ列舉シタル第十九條中ニハ共分會社ヲ掲載スルコトナシ是レ蓋シ共分會社ハ他ノ諸會社トハ全ク性質ヲ異ニシト併列スルコト能ハサルモノアレハナリ即チ共分會社ノ契約ハ唯社員中ニ存在スルノミコテ社外人ニ對シ存在セサルモノナリ然レトモ共分會社ハ實際稀少ノモノニアラス故ニ少シク丁寧ニ之ヲ解説スルヲ必要ナリトスヘシ因リテ之ヲ分チテ二款トナシ第一款ニ於テ此會社ノ性質ヲ説キ第二款ニ於テ之ヲ支配スル規

則チ説クヘシ

○第一款 共分會社特有ノ性質

余ハ先ツ一二ノ例ヲ示シテ此會社ノ如何ナルモノナルカヲ知ラシム
 ヘシ爰ニ一船ノ生糸ヲ搭載シテ馬耳塞港ニ來ルモノアリ馬耳塞ノ商
 人甲乙ノ兩人ハ各此生糸ヲ買取ラント欲セリ然レトモ甲乙各自ハ一
 人ニテ積荷ノ悉皆ヲ買取ルノ資金ヲ有セス於是兩人相結ンテ其資金
 チ合併シ之ヲ甲ニ託シ甲ハ之ヲ以テ生糸ヲ買取リ又之ヲ他ニ轉賣シ
 テ然ル後利益ヲ兩分スヘシト約ス是レ即チ共分會社ト名クルモノナ
 リ又甲乙兩人ノ此契約ヲナスヤ各自入用ノ資金ヲ有セサルカ爲メニ
 アラスシテ單ニ相互ノ競争ヲ避ケント欲スルニ由ルコトアリ然レト
 モ其原由ノ何タルヲ問ハス積荷ヲ買取ル者ハ甲一人ナルヲ以テ船主
 ハ曾テ乙ヲ知ラサルナリ

第一問 然ラハ則テ共分會社固有ノ性質ハ果シテ如何此點ニ就テハ
 古來學者ノ説一定セズドマンシア氏ノ説ニ因レハ共分會社ト他ノ會
 社トノ區別ハ共分會社ハ他ノ會社ノ如ク始メヨリ一定セサル無數ノ
 事件(即チ一ノ營業)ヲ營ムモノニアラスシテ始メヨリ一定セル一件又
 ハ數件ヲ營ムモノナリ故ニ茲ニ甲乙ノ兩人資金ヲ醗集シテ割烹店ヲ
 開シカ如キハ共分會社ト云フヘカラサルナリドマンシアノ説ノ理由
 トスル所ハ第一古來記者ノ引用スル共分會社ノ例ハ悉ク始メヨリ一
 定シタル一件又ハ數件ヲ營ムノ會社ニアラザルハナシト云フニ在リ
 第二ハ商法第四十八條ニ於テモ亦共分會社ハ一定シタル一件又ハ數
 件ヲ營ムカ爲メニ成立スルモノナリトアリト云フニ在リ然レトモ此説
 ハ裁判例ノ採用スル所トナラサリシノミナラス學者中ニ於テモ亦多數
 ノ同意ヲ得ルコト能ハサリキ多數ノ説ニ從ヘハ共分會社特有ノ性質

ハ此會社ハ外部ニ顯ハル、コトナシト云フニアリ即チ社員中ニ成立スル一ノ契約ニ過キスシテ社外人ニ對シテハ全ク關係ナキモノナリト云フニ在リ凡ソ尋常ノ會社ニ於テハ會社ナル一個人ハ社員ト分離シ他人皆明カニ其存在ヲ認ムルコトヲ得ヘシ之ニ反シ共分會社ハ他人其存在ヲ認ムルコトヲ得サルナリ彼ノ普通會社ナルモノハ一個ノ無形人ニアラス然レトモ社員ノ集合シタル者カ社外人ニ向ツテ働作ヲナシ得ルハ亦疑フヘカラサルナリ何トナレハ會社ノ役員カ社外人ト契約ヲナストキハ其役員ハ全社員ノ代理者ニシテ其契約ハ全社員ニ對シテ効力アレハナリ是レ豈ニ社員ノ集合シタル者カ他人ニ對シテ働作ヲナシ得ルモノニ非ラスヤ共分會社ハ乃チ然ラス其社員ノ一人カ社外人ト契約ヲナスヤ會社ノ名義ニテナスニアラス唯其一個人ノ資格ヲ以テ之ヲナスニ過キス故ニ其契約ハ他ノ社員ニ對シ關係ナ

キモノナリ即チ共分會社ノ社員ハ相集合シテ他人ニ對シテ働作ヲナスコト能ハサルモノト知ルヘシ彼ノ第一說ニ云フカ如ク會社ノ營ム所ハ初メヨリ一定シタル一件又ハ數件ナルコト又ハ初メヨリ一定セサル無數ノ事件ナルコト他ノ會社ト同一ナルトハ共分會社ノ性質ニ關係ナキモノナリ之ヲ問ハスシテ可ナリ若シ夫レ古來ノ記者及ヒ商法第四十八條ニ初メヨリ一定シタル一件又ハ數件ヲ營ム所ノ會社ノミチ掲載シタルハ是レ實際ニ於テ最多キ場合ヲ示シタルニ過キス決シテ共分會社ノ性質ハ斯ノ如キモノナリト云フノ意ニ在ラサルナリ余ハ前段ニ於テ共分會社ハ社外人ニ對シテ存在セサルモノナリト云ヘリ然レトモ他人カ此會社ノ成立シタルヲ知ルト知ラサルトハ全ク此會社ノ成立ニ關係ナキモノナリ何トナレハ社員ノ一人甲カ社外人ト契約ヲナスニ當リ余ト乙トハ共分會社ヲ組織セリト云フモ之

レカ爲メニ共分會社ノ社質ヲ變更スルコトナカルヘキヲ以テナリ上ニ述ヘタル如ク此會社ノ特有ノ性質ハ彼ノ甲カ社外人ト契約ヲナスヤ甲一人ノ資格コト之ヲナスモノニシテ乙ノ代理ヲ兼ルモノニアラストノ一點是レナリ昔時ハ此會社ヲ呼ンテ無名會社ト云ヘリ蓋シ此會社ハ他人ニ對シ顯表セサルモノナルニ依リ社名ヲ有スルノ必要アラサレハナリ

第二問 共分會社ハ必ス尋常會社ニ必要ナル性質ヲ備ヘサルヘカラスアル手語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ會社ニ必要ナル條件ヲ備ヘサルモ共分會社ヲ成立スルコトヲ得ヘキヤ例ヘハ尋常會社ヲ成立スルニハ各社員必ス物品又ハ金貨ヲ會社ニ讓出スルヲ要スレトモ共分會社ニ於テハ或社員ハ讓出ヲナスニ及ハスト定ムルコトヲ得ルヤ余ハ之ニ答ヘテ云ントス曰ク凡ソ法律ノ禁セサル所ハ人々之ヲナスコト自由ナリ

故ニ共分會社ヲ設立スルニ法律ノ禁セサル限リハ如何ナル契約ヲナスモ人々ノ隨意ナリ然レトモ如何ナル契約ヲナスモ必ス共分會社タリト云フコトヲ得サルナリ例ヘハ甲乙ニ謂テ曰ク余ハ其事ヲ營ンテ得タル利益ノ半ヲ汝ニ與ヘント此ノ如キ契約ハ共分會社ニアラス即チ一ノ贈與ナリ故ニ此契約ヲナスニハ都テ贈與ノ規則ヲ履行セサルヘカラス而シテ已ニ贈與ノ規則ヲ履行シタルトキハ此契約ノ有効ナルコト論ヲ俟タサルナリ又都テ尋常會社ヲ成立スルニ必要ナル條件悉ク備リタルモ其會社他人ニ對シテ顯表セサルトキハ共分會社タルヲ失ハサルナリ然レトモ共分會社タルニハ悉ク會社成立ニ必要ノ條件具備スルヲ要セサルナリ例ヘハ尋常會社ヲ設立スルニハ社員ノ讓出ヲ集メテ一ノ共同資本ヲ作ルコト必要ナリ而シテ此共同資本ハ社員各自ノ所有ニアラスシテ共同所有物トナルナリ然レトモ共分會社ニ

於テハ必スシモ然ルコトヲ要セス各社員ノ醜出シタル物品ハ仍ホ各醜出者ノ所有ニ屬シテ共同所有物トナサ、ルコトヲ得ヘシ裁判例中ニハ反對ノ判決アリ且ツ夫レ共分會社ハ商業ヲ營ムモ普通ノ業ヲ營ムモ自由ナリ蓋シ按スルニ民法中共分會社ニ關スル規則ナク且ツ商法第四十七條ニ法律ハ商業共分會社ヲ認許ストアレヒ普通ノ業ヲ營ム所ノ共分會社ヲ許可セサルノ道理ナケレハナリ又共分會社ノ成立シタルトキ之ヲ支配スルニ會社ノ規則(商法又ハ民法)ヲ以テスヘキヤト問フモノアラハ余ハ乃チ左ノ如ク答フヘシ曰ク會社ノ規則中ニテ代理ノ趣意ヨリ出テタル規則(即チ社員互ニ代理人タリトノ趣意ヨリ出テタル規則)及ヒ會社契約ノ公告ニ關スル規則ヲ除クノ外ハ凡テ之ヲ共分會社ニ適用スヘシ例ヘハ醜出ヲ怠リタル社員ハ其醜出スヘキ日ヨリノ利息ヲ拂ヒ及ヒ其醜出ヲ怠リタルヨリ生スル損害ヲ償フヘ

ントノ規則ノ如キ是レナリ

○第二款 共分會社ヲ支配スル特別ノ規則

第一則○共分會社ハ其商業會社タルトキ如何ナル方法ヲ用フルモ其存在ヲ証スルコトヲ得ヘシ(第四十九條)然レトモ其普通會社タルトキハ民法ノ規則ヲ適用スルモノトス即チ金高百五十法以上ノ事件ニ關スルトキハ証人ヲ用ヒテ其存在ヲ証スルコト能ハス

第二則○共分會社ハ之ヲ公告スルニ及ハス(第五十條)蓋シ社外人ハ此會社ノ存在ヲ知ルコトヲ要セサルヲ以テナリ斯クノ如ク法律ハ此會社ヲシテ他ノ會社ノ如ク種々ノ手續ヲ履行スルコトヲ免カレシメタルヲ以テ世或ハ共分會社ニアラサル者ヲ名ケテ共分會社ト云ヒ以テ此手續ノ履行ヲ免レント試ムルモノナキヲ保スヘカラス裁判官ハ須ラク其名ニ拘泥セズシテ其實ニ就テ處分セサルヘカラス

第三則○共分會社ハ其商業會社タルトキト雖モ一個ノ無形人ニアラス蓋シ會社ノ無形人タルハ會社カ直チニ社外人ト契約ヲナスノ便ヲ計リシニ由ル今共分會社ハ社外人ニ對シテ存在セサルモノナリ故ニ之ヲ一個ノ無形人ト見做スヲ要セサルナリ

第四則○社外人ハ已レト契約ヲ結ヒタル社員ニ對シテノミ直接ノ訴權ヲ有スヘシ蓋シ社員ハ互ニ代理ヲナシ會社ノ名義ニテ社外人ト契約ヲナスコトナシ故ニ社外人ハ已レト契約ヲ結ハサル社員ニ對シテ訴權ヲ有セサルナリ然レトモ社員ハ互ニ相對シテ訴權ヲ有セリ故ニ社外人ハ民法第千百六十六條ニ因リ已レト契約ヲ結ヒタル社員ノ訴權ヲ其社員ニ代リテ他ノ社員ニ對シテ行フコトヲ得ヘシ此他ノ事件例ヘハ利益金ノ配當ノ如キハ會社契約ニ從フテ之レヲ規定スヘシ若シ契約中ニ規定セサルトキハ會社ノ規則ヲ適用スヘシ之ヲ要スルニ

共分會社ハ社員中ニノミ存在スル一ノ契約ニ過キス故ニ契約ニ依據スルヲ以テ第一ノ務メトナサルヘカラス是レ或ハ法律上共分會社ニ就キ細目ヲ掲ケサル所以ナリ

第三篇 會社ノ解散及ヒ遺産ノ決算

○第一章 會社ノ解散

○第一節 解散ノ原因

商事會社ノ解散スル原因ハ之ヲ分チテ八トス

第一原因會社繼續期限ノ終リシトキ○會社ハ契約ヲ以テ成立スルモノナレハ其契約ニ於テ會社解散ノ期限ヲ明約シタル時ハ即チ其期限ノ經過ニ依リ會社ハ解散スヘシ

第二原因會社其取引ヲ結了シタルトキ○此原因ハ會社或一ノ取引又ハ或一定シタル數個ノ取引ヲ以テ目的トナシ創立セラレタル時ニ適用アルモノトス而シテ此原因アルキハ未タ期限終ラスト雖モ猶ホ解散スヘキモノトス

第三原因物件ノ滅盡シタルトキ○第一會社ノ目的トナス所ノ物件滅

或ハ前後抵觸スルヲモアルヘケレハ後ニ改正スルヲアルヘシ

盡シタルトキ例ヘハ或會社ハ或製造場ノ利用ヲ以テ目的トシタルニ該製造場火災ノ爲メ消滅シタルキハ其目的物件消滅スルヲ以テ會社ハ解散スヘキモノトス第二會社ノ資本皆無ニ歸シタルキハ會社ハ茲ニ全ク解散スヘシ

第四原因醸出物ノ滅盡シタルトキ○民法第千八百六十七條ニ曰ク一社員カ或ル物件ヲ醸出スルヲ約シタル場合ニ於テ未タ之ヲ醸出セサル前ニ該物件消滅スルキハ全社員ニ對シテ會社解散スヘシ若シ或物件ノ享用權ノミヲ醸出スルヲ約シタル場合ニ於テ其所有權ハ仍ホ醸出主ニ屬ス該物件消滅スルキハ已ニ之ヲ醸出シタルト未タ醸出セサルトヲ問ハス會社解散スヘシ然レモ或物件ノ所有權ヲ醸出スルヲ約シテ既ニ之ヲ醸出シタル後該物件消滅スルキハ會社解散セスト余ハ此條ヲ細說セントスルニ當リ先ツ第三項ヨリ始ムヘシ茲ニ一

第三篇 會社ノ解散及ヒ遺産ノ決算

○第一章 會社ノ解散

○第一節 解散ノ原因

商事會社ノ解散スル原因ハ之ヲ分チテ八トス

第一原因會社繼續期限ノ終リシトキ○會社ハ契約ヲ以テ成立スルモノナレハ其契約ニ於テ會社解散ノ期限ヲ明約シタル時ハ即チ其期限ノ經過ニ依リ會社ハ解散スヘシ

第二原因會社其取引ヲ結了シタルトキ○此原因ハ會社或一ノ取引又ハ或一定シタル數個ノ取引ヲ以テ目的トナシ創立セラレタル時ニ適用アルモノトス而シテ此原因アルキハ未タ期限終ラスト雖モ猶ホ解散スヘキモノトス

第三原因物件ノ滅盡シタルトキ○第一會社ノ目的トナス所ノ物件滅

(注意)第三篇ヨリ第四原因例ハハ云々物件ヲ歸ニ至ル原稿紛失シタルニ由リ假リニ挿入シタルモノナレハ或ハ前後抵觸スルコトモアルヘケレハ後ニ改正スルコトアルヘシ

盡シタルトキ例ヘハ或會社ハ或製造場ノ利用ヲ以テ目的トシタルニ該製造場火災ノ爲メ消滅シタルキハ其目的物件消滅スルヲ以テ會社ハ解散スヘキモノトス第二會社ノ資本皆無ニ歸シタルキハ會社ハ茲ニ全ク解散スヘシ

第四原因釀出物ノ滅盡シタルトキ○民法第千八百六十七條ニ曰ク一社員カ或ル物件ヲ釀出スルコトヲ約シタル場合ニ於テ未タ之ヲ釀出セサル前ニ該物件消滅スルキハ全社員ニ對シテ會社解散スヘシ若シ或物件ノ享用權ノミヲ釀出スルコトヲ約シタル場合ニ於テ其所有權ハ仍ホ釀出主ニ屬ス該物件消滅スルキハ已ニ之ヲ釀出シタルト未タ釀出セサルトヲ問ハス會社解散スヘシ然レモ或物件ノ所有權ヲ釀出スルコトヲ約シテ既ニ之ヲ釀出シタル後該物件消滅スルキハ會社解散セスト余ハ此條ヲ細說セントスルニ當リ先ツ第三項ヨリ始ムヘシ茲ニ一

社員アリ或物件ヲ會社ニ讓出スルコトヲ約シテ已ニ之ヲ讓出シタリ然ルトキハ會社之レカ所有主トナル然ル後、物件消滅セリ此場合ニ於テハ此物件會社ノ資本ノ要部ヲ組織スルニアラサルヨリハ(若シ此物件會社ニ必要ナル資本ナルトキハ會社ハ第三原因ニ從フテ解散スヘシ)會社解散スルコトナシ

然ラハ社員未ダ物件ヲ讓出セサル場合ハ如何曰ク此場合ニ於テハ會社解散スト云ハサルヘカラス蓋シ凡ソ會社ヲ成立セシムルニハ必ス各社員物件ヲ讓出スルヲ要ス然ルニ會社員物件ヲ讓出セサルニ會社解散セサルトキハ是レ社員ノ一人讓出チナサスシテ會社成立スルコトヲ得ルモノナレハナリ

第千八百六十七條第二項ノ如キハ右ノ道理ヲ擴充適用シタルモノニ過キササルナリ今其意ヲ解釋スレハ左ノ如シ

(一) 社員或ル物件ノ享用權ヲ讓出スルコトヲ約シタリ然リ而シテ享用權ハ物權ニアラサルヲ以テ該社員ハ一度此ノ物件ヲ會社ニ渡シタルノミコテ其約ヲ履行シタルト云フヲ得ス必スヤ約束ノ期限中常ニ會社ヲシテ該物件ノ享用ヲ得セシメサルヘカラス然レトモ該物件讓出主ノ過主ニアラスシテ消滅シタル場合ニ於テハ讓出主ハ復タ其約ノ如ク續テ享用權ヲ會社ニ讓出スルコト能ハサレハ其義務ヲ免ル、コト勿論ナリ猶ホ家主カ其家屋ヲ人ニ賃貸シタルニ當リテ該家屋燒盡スルトキハ其義務(家ヲ貸スノ義務)ヲ免ルルカ如シ蓋シ一社員カ其讓出チナサ、ルハ即チ會社ノ成立ニ必要ナル一條件ヲ欠クモノナレハナリ故ニ會社解散スヘシ

然レトモ第千八百六十七條第一項ニ至リテ大ニ解スヘカラサルモノアリ第一項ニ曰ク社員ノ中或ル物件ノ所有權ヲ會社ニ讓出スルヲ約

シタルトキ未タ之レヲ醜出セサル前ニ該物件消滅スルトキハ會社解散スヘシト今此項ヲ解説スルニ先チ左ノ二事ヲ注意セサルヘカラス
 第一此物件トハ必ス確定物件例ヘハ某家屋某馬ノ如キモノヲ指稱スルコトヲ要ス何トナレハ不確定ノ物件ハ消滅スルコトナケレハナリ
 第二此物件ハ會社ノ必要ナル資本タラサルヘシ何トナレハ此物件ニシテ會社ニ必用ナル資本ナルトキハ第三原因ニ從フテ會社解散スヘケレハナリ夫レ然リ第一項ノ場合ハ如何ナルトキ生出スヘキヤ今深く考思ヲ費ヤサスシテ之レヲ見レハ其場合ヲ見出スコト實ニ容易ナルカ如シ即チ一社員會社ニ必要ナル資本ニアラサル一ノ確定物件ヲ醜出スルコトヲ約セシニ其未タ之レヲ醜出セサル前ニ該物件消滅セリ此ノ場合ニ於テハ第一項ヲ適用シテ會社解散スヘシ然レトモ民法第千百三十八條ノ規則アルヲ奈何セン第千百三十八條ニ曰ク人其所

有ノ確定物件ヲ他人ニ讓與スルコトヲ約スルトキハ其物件所有權ハ約束ノトキ直チニ讓受人ニ移ルヘシト此ニ由テ之レヲ觀レハ一社員其所有ノ確定物件ヲ會社ニ醜出スルコトヲ約シタルトキハ其物件ハ此時ヨリシテ會社ノ所有ニ歸ス即チ約束ヲ爲シタルトキ既ニ醜出チ了リタルモノナリ故ニ該物件醜出チ爲サントスル社員ノ手ニ在リテ消滅スルモ之レヲ以テ該社員ハ醜出ヲナサ、リシト云フコトヲ得サルナリ何トナレハ該物件ノ損失ヲ負擔スヘキ者ハ醜出主ニアラスシテ會社ナレハナリ然ラハ即チ此場合ニ第千百六十七條第一項ヲ適用スヘカラサルコト明瞭ナリ
 然レハ則チ第一項ハ如何ナル場合ニ之レヲ適用スヘキヤ或曰ク法律ハ第千八百六十七條第一項ノ規則ヲ以テ民法第千百三十八條ノ規則ニ一ノ取除ヲ設ケタル者ナリ即チ一般ノ規則ニテハ第千百三十八條

ニ從ヒ所有權ニ約束ノミヲ以テ移轉スルト雖モ會社ノ社員カ其所有物ヲ會社ニ讓出スルコトヲ約スル場合ニ於テハ現ニ該物件ヲ會社ニ渡スニアラサレハ其所有權ハ會社ニ移ラスト是レ思ハサルノ說ノミ何トナレハ其理由一モアラサルノミナラス第千八百六十七條ノ規則編制ノトキ斯ノ如キ取除ヲ設クルノ意ハ會社一人モ發言シタルコトナケレハナリ加之羅馬ノ法律ニ於テハ其一般ノ規則ニ據レハ所有權ハ現ニ物件ヲ讓渡スニアラサレハ移轉セサルニ拘ハラズ會社ニ關シテハ單ニ約束ヲナシタルノミヲ以テ所有權移轉シタリキ願フニ立法羅馬法ヲ知ル殊ニ熟ス而シテ故ラニ其反對ニ出ツルト云フ歟余斷シ者テ其然ラサルヲ知ルナリ

余ヲ以テ之レヲ觀レハ立法者ハ第千八百六十七條ヲ編制スルニ當リテ全ク第千八百三十八條ノ存スルコトヲ忘却シ所有權ハ現ニ物件ヲ

讓渡スニアラサレハ移轉セスト思考シタリシナラント思ハル

今其忘却シタルヤ否ヤハ少ラク之レヲ攔キ既ニ第千八百六十七條第一項ノ明文アル以上ハ之レヲ適用スルノ場合ヲ見出サルヘカラス即チ左ニ其二三ノ場合ヲ示サン但余ハ曾テ立法者カ此ノ如キ場合ノ爲メニ此項ヲ設ケタリトハ信セサルノミ

第一社員ノ一人己レニ屬セサルモノ即チ他人所有ノ物件ヲ讓出スルコトヲ約セリ而シテ該物件未タ之レヲ讓出セサル前ニ消盡スルトキハ是レ該社員ハ其讓出ヲナサハリシモノナリ何トナレハ他人ノ物件ヲ人ニ讓與スルコトヲ約スルトキハ先ツ其物件ヲ其所有主ヨリ讓受クルニアラサレハ該物件ノ所有權移轉セサレハナリ故ニ會社解散スヘシ

第二社員ノ一人會社ノ爲メニ或ル物件ヲ製造シテ會社ニ讓出スルコ

トヲ約セリ而シテ該物件ノ製造未タ成ラサルヲ以テ會社ハ未タ之レ
カ所有主トナラサルナリ此場合ニ於テ該物件其製造ノ中途ニテ消滅
スルトキ又ハ該社員未タ其製造ヲ終ラサル前ニ不具者トナリタルカ
爲メニ續テ製造スルコト能ハサルトキハ會社解散スヘシ

第五原因社員ノ一人死去スルトキ○蓋シ會社ハ社員相互ニ信憑スル
ニ因リテ成立スルモノナルカ故ニ其一人死去スルトキ他人之レニ代
ルコト能ハサルヲ以テナリ此原因ハ共分會社ニ適用スヘカラサルナ
リ何トナレハ共分會社ノ社員ハ常ニ變更スルヲ例トスレハナリ何ト
ナレハ資本會社ノ社員權即チ株式ハ死者ノ相續人ニ移轉スルコト當
然ナレハナリ故ニ第五原因ヲ適用スヘキ會社ハ獨リ人物ノ會社ニ限
レリ但人物ノ會社ト雖モ其會社ノ契約ニテ左ノ如ク定ムルコトヲ得
ヘシ第一社員ノ一人死去スルトキハ會社ハ殘リノ社員中ニテ之レヲ

存續スヘシ第二社員ノ一人死去スルトキハ其相續人又代リテ社員ト
ナルヘシ

第六原因社員ノ一人法律上又ハ裁判上ノ禁治產ヲ受ケタルトキ○其
理由ハ第五原因ノ理由ニ同シ蓋禁治產ヲ受ケタル社員ハ自由ニ其財
產ヲ處理スルコト能ハサルヲ以テ殆ント死去シタル社員ニ異ナラサ
レハナリ又此原因ハ共分會社及ヒ所謂資本ノ會社ニ適用スヘカラ
サルナリ

第七原因一社員ノ倒産又ハ分散○其理由ニアリ第一社員中ニ倒産又
ハ分散ヲナシタルモノアルハ會社ノ爲メニ信用ヲ害スルニ至ル第二
分散ヲナシタル者ハ禁治產ヲ受ケタル者ノ如ク自由ニ其財產ヲ處置
スルコト能ハサレハナリ此原因ハ資本ノ會社ニ適用スヘカラス何ト
ナレハ資本ノ會社ノ一社員分散ヲナストキハ其株券ハ債主ニ移轉ス

ヘク又此場合ニ於テ該社未タ株金ノ全部ヲ拂込マサリシトキハ分散ノ跡引受人ニ於テ或ハ殘金ヲ拂込ニ或ハ殘金ヲ拂込マスシテ株券ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキヲ以テナリ

會社分散ヲナストキハ(會社ハ一個ノ無形人ナルヲ以テ社員ノ如ク分散ヲナスコトヲ得ルナリ)解散スヘキヤ此疑問ノ起ル所以ハ民法第千八百六十七條ニ一社員ノ分散トノミアリテ會社ノ分散ヲ云ハサルニ因レリ余ハ會社分散スルモ解散スルコトナカルヘシト信ス其理由ハ第一法律ニ明文ナシ第二會社分散スル場合ニ於テ社員ハ尙ホ此會社ヲ保續センコトヲ欲スルトキハ債主ノ一致ノ承諾ヲ得テ之ヲ解散セサルコトヲ得ヘシ此時ニ當リ法律上必ス會社解散スヘシト定ムルハ適當ノ處置ニアラサレハナリ(一千八百六十九年七月十二日巴里控訴院ノ判決)

第八原因社員ノ一人退社ヲ申出タルトキ○但シ社員ハ如何ナル場合ニ於テモ常ニ退社解散ヲ申出ルコトヲ得ルニアラス乃チ左ノ區別ヲナサ、ルヘカラス

第一會社無期限ナルトキ○此場合ニ於テハ社員常ニ解散ヲ請求スルコトヲ得ヘシ而シテ其之レヲ請求スルヤ理由ヲ陳辨スルニ及ハサルナリ但解散ヲ請求スルハ會社ノ爲メニ不都合ノ時ニ於テスヘカラス又惡意ヲ以テセサルコトヲ要ス惡意トハ例ヘハ甲乙兩人會社ヲ結ンテ或業ヲ營ミ甚タ利潤アルニ當リ甲ハ其利ヲ壟斷センカ爲メニ會社ヲ解散シ已レ一人ニテ其業ヲ營マントスルカ如キヲ云ナリ何ヲ以テ會社無期限ナルトキ社員其解散ヲ請求スルコトヲ得ルヤ或論者ハ曰ク會社ノ契約ニテ期限ヲ定メサリシハ各社員其意ニ隨フテ解散ヲ求ムルコトヲ得ヘシトノ意ニ出テタリト推測セサルヲ得ス 余ハ此理

由ヲ以テ不當ナリトハ云ハサルナリ然レトモ尙ホ一理由ヲ加ヘサルヘカラスト考フ曰ク法律ハ人ノ永久其自由ヲ檢束スルノ約ヲ結フコトヲ欲セスト蓋シ會社ノ契約ハ尋常ノ契約ニ異ナリテ此契約ヨリシテ更ニ無數ノ契約(即チ會社カ社外人ト結フ契約)ヲ生スヘキモノナリ而シテ社員ハ互ニ代理ヲナスモノニシテ一社員カ會社ノ名義ニテ結ビタル契約ハ社員各之レヲ分擔セサルヘカラスト此ノ如ク會社ノ契約ハ人ヲシテ責任ヲ負ハシムルコト莫大ナルカ故ニ人ヲシテ永久此契約ノ羈絆ヲ脫スルコト能ハサラシムルハ人ノ自由ヲ檢束スルノ甚シキモノト云ハサル可ラス是レ會社無期限ノ場合ニ於テハ社員ヲシテ隨意ニ解散ヲ請求スルコトヲ得セシムル所以ナリ

此第二ノ理由ヨリシテ左ノ二個ノ結果ヲ生ス

第一會社契約ヲ以テ社員ハ決シテ隨意ニ解散ヲ請求スルコトヲ得ス

ト定ムルモ此契約ハ無効ナリ

第二會社ノ期限非常ニ長キトキ或ハ其營業非常ノ長時限ニ涉リテ初メテ落着スヘキトキ(例ヘハ鑛山開堀ノ業百年コシテ終ルヘキトキノ如シ)ハ社員最初ノ意思ハ此期限中會社ヲ保續スルニ在ルコト明白ナレトモ社員ハ之レニ拘ハラス期限前ニ解散ヲ請求スルコトヲ得ヘシ然レトモ第一ノ理由ノミヲ以テ満足スル論者ハ此結果ヲ承認スルコト能ハサルナリ何トナレハ第一ノ理由ハ止マ社員カ其意思ヲ明言シタルトキハ復タ推測ヲナスヲ用ヒス宜ク其意思ニ從フヘキハ言ヲ俟サレハナリ

會社無期限ナルトキト雖モ會社契約ヲ以テ社員ハ其權利ヲ他人ニ讓與スルコトヲ得ヘシト定メタルトキハ解散ヲ請求スルコト能ハサルナリ此場合ニ於テ社員若シ會社ヲ去ラント欲セハ其權利ヲ他人ニ讓

與スヘキノミ

又此原因ハ資本ノ會社ニ適用スヘカラス何トナレハ資本ノ會社ニ於テハ社員ハ其株式ヲ賣リテ退社スルコト自由ナレハナリ之レテ會社無期限ナルトキノ規則トス

第二會社期限アリテ其期限非常ニ長カラサルトキ○此場合ニ於テハ社員隨意ニ解散ヲ請求スルコト能ハサルヲ規則トス(民法第一千八百六十九條)但左ノ場合ニ於テハ會社期限前ニ解散スルコトヲ得ヘシ

第一全社員解社ニ一致スルトキ

第二會社契約ヲ以テ社員過半数ノ同意ヲ以テ解社スルコトヲ得ヘシト定メタル場合ニ於テ社員過半数解散ニ同意シタルトキ

第三一社員解社スヘキ正當ノ理由ヲ述ヘテ解散ヲ裁判所ニ請求シタルトキ(民法第一千八百七十一條)○所謂正當ノ理由トハ例ヘハ一社員

癡疾不具者トナリ會社ノ事務ヲ執ルコト能ハサルコト或ハ社員中ニ不和ヲ生シ調和ノ望ミナキコト又ハ會社非常ノ損失ヲ受ケ其資本ノ大半ヲ亡失シタルカ爲メニ續テ營業ヲナスモ利益ナキコト等はレナリ一千八百六十七年ノ法律ハ其第三十七條ニ此第三ノ場合ヲ記載セリ曰ク會社ノ資本四分ノ三以上ヲ亡失スルトキハ役員ハ株主總會ヲ開キテ會社ヲ解散スヘキヤ又ハ持續スヘキ乎ヲ問フヘシト

○第二節 解散ノ公告

普通會社ハ其成立ヲモ解散ヲモ公告スルニ及ハスト雖トモ商業會社ハ其成立ヲ公告セサルヘカラサルカ如ク其解散ヲモ公告セサルヘカラサルナリ蓋シ解社ヲ公告セサルトキハ社外人ハ會社尙ホ存在スト信スル恐レアレハナリ故ニ解社ノ公告アラサリシ場合ニ於テ社外人其解社シタルコトヲ知ラスシテ會社ノ役員ト契約ヲナシタルトキハ

會社ニ對シテ訴權ヲ有スルコトヲ得ルナリ
 一千八百六十七年ノ法律第六十一條ニ於テ解社ノ公告ニ關スル規則
 ナ記載セリ曰ク左ニ列舉スル事項ヲ規定シタル處置及ヒ決議ハ第五
 十五條及ヒ第五十六條ニ規定シタル手續及ヒ罰則ニ從フヘシ(中略)一
 期限前ノ解社(中略)故ニ第六十一條ニ依ルトキハ社員ノ一致ヲ以テ期
 限前ニ會社ヲ解散スルトキハ之ヲ公告セサルヘカラサルコト疑ヒテ
 容レサルナリ之レニ反シ會社其期限滿テタルニ因リテ解散スルトキ
 ハ之レヲ公告スルニ及ハサルコト亦疑ナシ然レトモ余ハ後ノ場合ニ
 於テモ尙ホ公告セシムルニ如カスト信ス何トナレハ社外人中ニハ會
 社ノ期限ヲ忘却スル者ナキヲ保シ難ケレハナリ次ニ社員ノ一人例産
 ノ宣告ヲ受ケタルニ因リ會社解散スルトキハ之ヲ公告スルコトヲ要
 ス何トナレハ第六十一條ニ期限前ノ解社ヲ規定シタル處置又ハ決議

云々トアリ然ルニ此等ノ場合ニ於テハ必ス裁判ノ宣告ヲ以テ解社ヲ
 命スルヲ法トス而シテ裁判ノ宣告ハ一ノ處置ト云ハサルヲ得ス故ニ
 此等ノ場合ハ第六十一條ノ中ニ入ルヘキコト言テ俟サレハナリ然レ
 トモ左ノ場合ニ至テハ疑ヒナキヲ得サルナリ即チ社員ノ一人死去シ
 タルニ因リ會社解散スルトキ是レナリ余ヲ以テ之レヲ觀レハ此場合
 ニ於テハ公告ヲナスニ及ハサルモノ、如シ何トナレハ一社員死去ス
 ルトキハ特ニ裁判又ハ決議ヲ要セスシテ會社解散スルヲ以テ此場合
 ハ第六十一條中ニ入ル、コト能ハサレハナリ或ハ公告ヲナサ、ルト
 キハ社外人ハ會社尙ホ存在スヘシト信スルノ恐アリト云フヲ以テ之
 レヲ難スル者アラシ余モ又法律ノ不完全ナルヲ知ラサルニ非ス然レ
 トモ已ニ法律ヲ以テ規定シタルモノハ之ヲ動かスコト能ハサルヲ如
 何セン

余ハ前段ニ於テ解社ノ公告ナキトキハ社外人ハ會社ニ對シテ訴權ヲ有スヘシト云ヘリ然レトモ此事ニ就テハ尙ホ詳說セサルヘカラスモノアリ第一解散ヲ公告セサルヘカラスル場合ニ於テ之ヲ公告セサリシトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤ此場合ニ於テハ解散後ニ會社ト契約ヲナシタル社外人ハ假令解社ヲ知リタリト雖モ尙ホ會社ヲ存在スルモノト見做シ會社ヲシテ義務ヲ盡サシムルコトヲ得ヘシ蓋シ法律ヲ以テ他人ニ或ル事件ヲ知ラシメンカ爲メニ之ヲ公告スル一ノ手續ヲ規定シタルトキ此手續ヲ履マサルキハ他人偶マ他ノ方法ヲ以テ此事件ヲ知ルト雖モ法律ハ尙ホ之ヲ知セラサルモノト見做スヲ規則トスレハナリ其一例ヲ舉レハ民法第一千七十一條是ナリ第一千七十一條ニ據レハ贈與ヲナシタルトキハ之ヲ他人ニ知ラシメンカ爲メニ登記ヲナサ、ルヘカラス而シテ登記ヲナサ、リシトキハ他人他ノ方法

ニテ贈與ノアリタルコトヲ知ルモ此贈與ハ他人ニ對シテ無効ナリトス蓋シ此ノ如クセサレハ手續ノ必行ヲ期スヘカラスルカ故ナリ次ニ解社ヲ公告スルニ及ハサルトキ其公告ナキカ爲メニ解社ヲ知ラスニテ會社ノ役員ト契約ヲナシタル社外人ハ其解社ヲ知ラサリシコトヲ証明スルトキノミ尙ホ會社ヲ存在スルモノ、如ク見做シ之ニ對シテ訴權ヲ有スヘシ然レトモ若シ解社ヲ知ラサリシコトヲ証明スルコト能ハサルトキハ會社ニ對シテ訴權ヲ有セサルナリ

○第二章 遺産ノ決算及ヒ分配

○第一款 遺財ノ決算

會社解散スルトキハ其遺財ヲ社員ニ分配セサルヘカラス然レトモ之ヲ分配スルニ先キ尙ホ區處スヘキ事務尠カラス會社負債アルキハ之ヲ辨濟セサルヘカラス會社債權ヲ有スルトキハ之ヲ徵收セサルヘカ

ラス會社或ル事業ヲ起シ未タ終ラサルトキハ之ヲ完納セサルヘカラ
 ス之ヲ要スルニ分配ヲナス前ニ當リテ會社カ社外人ニ對スル關係ヲ
 斷絶シ分配スヘキ財産ヲ確定セサルヘカラス之ヲ名ケテ遺財ノ決算
 ト云フ

遺財ノ決算ニ關シテハ法律上會テ定ムル所ナシ故ニ此事ニ關シテハ
 先ツ會社契約ノ定ムル所ニ從ヒ契約ノ不完全ナル場合ニ於テハ一般
 ノ原則ニ基テ處分セサルヘカラス白耳義ニ於テハ一千八百七十三年
 五月十八日ノ法律ヲ以テ遺財ノ決算ヲ支配スル法律ヲ制定セリ
 遺財ノ決算ヲ支配スヘキ法律ヲ探究スルニ當リ第一ニ左ノ疑問起ル
 ヘシ曰ク遺財ノ決算ヲ掌ルヘキ者即チ所謂決算人ナル者ハ誰ソヤ決
 算人ヲ撰任スル者ハ何人ナル乎ト

第一原則○會社契約ニテ定メ置キタル人之ニ當ル

然レトモ若シ契約ニテ定メサルトキハ如何スヘキヤ此疑問ニ關シテ
 ハ學者及ヒ裁判例ノ間議論一定セス裁判例ニ據レハ會社契約ニテ決
 算人ヲ定メ置カサルトキハ全社員ノ一致アルニアラサレハ之ヲ撰定
 スルコト能ハス即チ社員過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ撰任スルコト能ハ
 サルナリ若シ社員一致セサルトキハ裁判所之ヲ撰任スヘシドマンシ
 ア氏ノ說ニ據レハ社員過半数ノ同意ヲ以テ決算人ヲ撰任スルコトヲ
 得ヘシ而シテ其理由トスル所ハ決算人ヲ撰任スルハ豫期シタル事ニ
 シテ新ナル事件ニアラス故ニ通常會社ノ事件ヲ評定スルカ如ク社員
 過半数ノ同意ヲ以テ撰任スルコトヲ得ヘシト云フニ在リ余ハ裁判例
 ノ說ヲ以テ至當ナリト信ス抑決算人ノ權力ハ非常ナル者ニシテ役員
 ノ權力ヨリモ遙カニ大ナリ故ニ之ヲ撰任スルハ一大重要事件ナリト
 云フヘシ然レハ即チ之ヲ以テ會社通常事務ニ比準スルハ其當ヲ得タ

ルモノニアラス余ハ寧ロ之ヲ以テ社員間及ヒ社員ト決算人トノ間ニ成ル新タナル契約ト見做スヲ適當ト思惟スルナリ斯ノ如キ重要ノ事件ヲ社員過半数ノ同意ニテ決スルコトヲ許ストキハ少数ノ社員ハ已レノ欲セサル者決算人トナリテ其共有物ヲ自由ニ處分セラル、モ之ニ默從セサルヘカラス少数ノ社員ニ對シテ不正ノ處置ナリト云フヘシ是レ余カ裁判例ノ說ヲ是トスル所以ナリ

次ニ決算人ノ權限ハ如何

第二原則○決算人ハ代理人ノ如ク遺財ノ決算ニ必要ナル凡百ノ事件ヲ行フコトヲ得ヘシ其他ノ事件ヲ行フコトヲ得ス今二三ノ例ヲ舉レハ決算人ハ會社ノ負債ヲ辨濟スルコトヲ得ヘシ會社ノ負債者ヲ相手取テ法廷ニ出訴スルコトヲ得ヘシ會社ノ負債者ヨリ辨濟ヲ得タルトキハ請取書ヲ渡スコトヲ得ヘシ其他財産保守ノ處置例ヘハ會社ニ對

スル期滿免除ヲ中斷シ或ハ會社カ有スル書入ノ書換ヲナスコトヲ得ヘシ又會社ノ負債ヲ辨濟スルニ當リ現金不足スルトキハ會社ノ動産又ハ不動産ヲ賣却シ其代價ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得ヘシ又會社カ其解散前ニ始メタル事業未タ終ラズシテ之ヲ中絶スヘカラサル必要アルトキハ之ヲ完了スルコトヲ得ヘシ以上決算人カ爲スコトヲ得ヘキ事件トス

然レトモ決算人ハ遺財ノ決算ニ關係セサル事件ヲ行フコトヲ得ス故ニ決算人ハ會社ノ爲メニ如何ナル利益アルヲ見ルモ新タニ商品ヲ買入ル、コト能ハス若シ斯ノ如キ處置ヲナストキハ之ヨリ生スル損失ハ其負擔ニ歸スヘシ決算人ハ會社ノ負債ヲ辨濟スルカ爲メニアラスシテ會社ノ不動産ヲ賣却シ又ハ之ヲ書入トスルコトヲ得ヘキヤ又決算人カ會社ノ爲メニ和談ヲナスコトヲ得ヘキヤ(社員カ特ニ此等ノ權

利ヲ決算人ニ許サ、リシトキ)此疑問ニ關シテハ學者中議論一定セスト雖モ余ノ思考スル所ヲ以テスレハ決算人ハ此等ノコトヲナスノ權カナシトス蓋シ決算人ハ總理代人ナリ然ルニ總理代人ハ此等ノ事件ヲ行フコト能ハサルヲ法トスレハナリ人或ハ曰ク此等ノ事件ハ時ニ之ヲ行フコトヲ必要トスルコトアリ然ルニ之ヲ許サ、レハ事務ニ差支ヲ生スルノ恐レアルヘシト余之ニ答ヘテ曰ク余ハ固ヨリ此等ノ事件ヲ以テ必要トラストセス然レトモ若シ之ヲ必要トスル場合アラハ其時ニ及ンテ特ニ之ヲ行フノ權利ヲ決算人ニ附與スヘキノミト

第三原則○遺財ノ決算ヲ終ラサル間ハ其決算ヲナスニ必要ナル程度ニ於テ會社ハ尙ホ存在スルモノ、如ク見做サ、ルヘシ此原則ハ法典ニ明文ナシト雖モ學者皆之ヲ承認セリ蓋シ此原則ハ古來ノ慣習ナルノミナラス實際ニ於テ必要ナルカ故ナリ

此原則ハ左ノ諸結果ヲ生ス

第一、會社ノ債主ハ解社後ト雖モ會社ノ財産ニ對シ先取權ヲ有ス即チ各社員ニ對スル債主ヨリ先ニ會社財産ヲ以テ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ヘシ余ハ已ニ商業會社ハ一個ノ無形人ナルヲ以テ會社ノ財産ハ社員固有ノ財産ト別チ又會社ノ債主ハ社員ニ對スル債主ト別チ會社ノ債主ハ會社ノ財産ニ就テ獨リ之ヲ專ラコトヲ得ヘシト云ヘリ是レ會社存在中ノ規則ナリ然レトモ會社解散スルニ當リ仍ホ此規則ヲ適用スルコトヲ得ヘキヤ單純ノ道理ヨリ云フトキハ此規則ヲ適用スルコト能ハスト云ハサルヲ得ス蓋シ會社解散スルトハ無形人ノ死去シタルト云フニ外ナラス已ニ無形人ナキトキハ所謂會社ノ財産ナルモノモ亦アルコトナシ故ニ會社ノ所有シタル財産ハ各社員共同ノ財産トナリ會社ノ債主ハ各社員ノ債主トナリテ復タ會社ト各社員トノ

財産債主ヲ區別スルコトヲ得サルヘシ然ラハ會社ノ債主ハ社員ノ債主ニ對シテ先取ノ權ヲ有スルノ理由アラサルナリ即チ會社ノ債主ハ辨濟ヲ得ンカ爲メニハ各社員ニ對シテ一々之ヲ請求セサルヘカラサルノミナラス各社員ノ債主ト其財産ヲ分配セサルヘカラサルナリ是レ猶ホ人死去スルトキハ其財産ハ相続人ノ財産トナリ其債主ハ相続人ノ債主トナルヲ以テ死者ノ債主ハ遺財ニ對シテ先取ノ權ヲ有セサルカコトシ然レトモ此ノ如クスレハ實際上死者ノ債主ノ爲メニ甚ダ不便ナルヲ以テ法律ハ財産分離ト云ヘルコトヲ許シ死者ノ財産ト相続人ノ財産トヲ區別シ死者ノ債主ヲシテ遺財ニ對シ先取ノ權ヲ有セシメタリ會社ニ於テモ亦同様ノ主意ヲ以テ會社ハ解散後ト雖モ尙ホ其財産ヲ所有シテ存在スル者ノ如ク見做シ會社ノ債主ヲシテ此財産ニ對シ先取ノ權ヲ有セシメリ蓋シ此ノ如クスレハ會社ノ債主ノ爲メ

ニ甚ダ便利ナルノミナラス會社ノ爲メニ此ノ如クセサルヘカラサルノ理由アリ何トナレハ一個人ノ亡滅スルニ止マ其死去ノ時ニ限レトモ會社ニ至リテハ則チ第一章第二節ニ於テ解説シタル如ク數多ノ事故ニ因リテ消滅スルカ故ニ會社ノ消滅即チ解散スルニ當リ其財産ハ社員固有ノ財産ト混同シ其債主ハ社員ノ債主ト合併スヘキモノト定ルトキハ會社ノ債主ハ常ニ其會社ノ財産ニ對シテ有スル先取ノ權ヲ失フノ恐レチ抱カサルヘカラス此ノ如クナレハ人皆容易ニ會社ノ債主トナルコトヲ欲セサルヘシ豈ニ會社ノ信用ヲ害スル所以ニアラスヤ是レ會社解散後ト雖モ其債主ハ先取ノ權ヲ失フコトナシト定メタル所以ナリ

第二、會社解散後ト雖モ本籍ハ依然トシテ存スヘシ故ニ會社ノ債主ハ會社ニ對シテ訴訟ヲ起スニ當リ各社員ヲ一々其本籍ノ地ノ裁判所ニ

訴フルニ及ハス遺財決算人ニ對シ會社本籍ノ地ノ裁判所ニ訴フルヲ以テ足レリトス

第三、會社ノ不動産ハ社員ノ共有トナルコトナシ然ルニ若シ會社解散ノトキ其不動産ハ直チニ社員ノ共有ニ歸スヘシト定ムルトキハ此不動産ニ對シ社員ノ資格ニ因リテ生スヘキ書入ノ權ヲ生スヘシ例ヘハ婦ハ其夫ノ不動産ニ制定ノ書入ヲ有シ彼ノ後見人ハ後見人ノ不動産ニ制定ノ書入ヲ有ス故ニ社員ノ一人妻ヲ有スル乎又ハ後見人ナルトキハ其婦ト被後見人トハ會社ノ不動産ニ書入ノ權ヲ有スルニ至ルヘシ是レ第三原則ノ許サ、ル所ナリ又會社ノ不動産ヲ賣却スルニ當リ買主書入特權ノ滌除ヲ行ハント欲セハ止メ會社ノ債主中此財産ニ書入レ又ハ先取ノ特權ヲ有ス者ノミニ對シテ之ヲ行ヘハ足レリトズ但爰ニ注意スヘキコトアリ決算人ハ會社即チ各社員ノ代理者ニシテ會

社ノ債主ノ代理者ニアラス故ニ會社ノ債主ハ決算人其職務ニ堪ヘサルコトアルモ之ヲ如何トモスルコト能ハサルナリ

○第二款 遺財ノ分配

民法第千八百七十二條ニ曰ク相續篇ニ於テ定メラレタル遺物ノ分配、分配ノ法式及ヒ之ヨリ生スル相續人間ノ義務ニ關スル規則ハ社員間ニ行フヘキ分配ニ適用スヘシト又商法第十一條ニ曰ク會社ノ契約ニ民事商事ニ關スル特別ノ法律及ヒ契約者ノ約束ニ從フテ規定スヘシト故ニ會社遺財ノ分配ヲ支配スヘキ規則ハ死者遺財ノ分配ヲ支配スル規則ト同一ナリ余ハ此規則ノ解説ヲ民法相續篇ニ讓リテ爰ニハ止メ二三ノ重要ナル規則ヲ列擧スルヲ以テ足レリトセン則チ其規則ハ左ノ如シ

第一、社員中ニ不能力者アルトキ或ハ分配ニ就テ社員一致セサルトキ

ハ裁判所ニ請フテ分配ヲナスヘシ
 第二、分配ハ既存ノ事實ヲ明示スルモノニ過キス(民法第八百八十三條)
 語ヲ換ヘテ云ヘハ分配ヲナシテ各社員財産ノ一部分ヲ得タルハ此分
 配ニ因リテ初メテ得タルニ在ラス此財産ハ其以前已ニ各社員ニ屬シ
 タルモノ、如ク見做スト云フニ在リ但シ相續ノ場合ニ於テハ相續人
 ハ死者ノ死去ノ時ヨリシテ其財産ノ所有者タリシカ如クニ見做サル
 レトモ會社ノ場合ニ於テハ分配ノ効力何レノ時迄溯ルヘキヤ是レ學
 者ノ未タ一致セサル點ナリ余ヲ以テ之ヲ觀レハ商業會社(共分會社ヲ
 除キ)ニ在リテハ分配ノ効力ハ會社解散ノ時ニ溯ルニ止ルヘシ何トナ
 レハ會社解散ノ日迄ハ此財産ハ會社ナル一個ノ無形人ニ屬シタルヲ
 以テ此時ニ當リ社員ノ所有者タリシト云フノ理由ナケレハナリ故
 ニ彼ノ分配ノ効力ハ此財産カ會社ニ入リシ日ニ溯ホルヘシトノ說ハ

不當ノ說ナリト信ス但シ何レノ說ニ決スルモ實際ニ於テハ大ナル差
 異アルコトナカルヘキナリ之ニ反シ普通會社ハ無形人ニ非ス隨フテ
 其財産ニアラスシテ社員ノ共有ナリ故ニ普通會社ニ於テハ分配ノ効
 力ハ財産カ會社ニ入リシ日ニ溯ホルヘシトノ說適當ナリト信ス
 茲ニ一疑問アリ曰ク相續篇ノ規則中會社ニ適用スヘカラサル規則ハ
 ナキヤ曰ク有リ相續權ノ買戻シ是ナリ(民法第八百四十一條)相續權ノ
 買戻シトハ相續人數人アルトキ其一人其相續權ヲ他人ニ賣リタル時
 ハ他ノ相續人ハ其代價ヲ買主ニ償フテ此權ヲ取返スコトヲ得ルコト
 是ナリ而シテ之ヲ會社ニ適用スヘカラサル一理由ハ相續權ノ買戻シ
 許シタル理由ヲ會社ニ適用スヘカラサルニアリ蓋シ此權ノ起ル所以
 ハ親族中ニ他人ノ混スルコトヲ防クニ在リ今會社ニ於テハ斯ル理由
 アルコトナシ且ツ第千八百七十二條ノ文字ニ從フモ此權ノ會社ニ適

用スヘカラサルニ似タリ蓋シ第千八百七十二條ニハ遺物ノ分配分配ノ法式及ヒ之ヨリ生スル義務ニ關スル規則云々トアリ而シテ相續權取戻ハ之ヲ稱シテ分配ト云フコトヲ得ス是レ全ク分配ト分離シタル一個ノ權利ニ外ナナス故ニ相續權取戻ハ第千八百七十二條ノ外ニアルモノト云ハサルヲ得ス即チ會社ニ適用スヘキ規則ノ外ニアルモノナリスノ如キ理由アルヲ以テ相續權買戻シニ就テハ學者異論アルコトナシ然レトモ其他ノ點ニ就テハ頗ル異論アルヲ免レサルナリ例ヘハ左ノ諸點ノ如シ

民法第八百二十六條ニ曰ク遺財中ニ金錢ニアラサル物件アルトキハ之ヲ各相續人ニ洩レナク分配スヘシト此條ハ會社ニ適用スヘキヤ(此疑問ノ起ル所以ハ此條ヲ設ケタル理由ハ會社ニ適用スヘカラサルヲ以テナリ)

民法第八百八十二條ニ曰ク各相續人ノ債主ハ詐偽ノ分配ヲ制止センカ爲メニ分配ニ參預スルコトヲ得ト此條ハ會社ニ適用スヘキヤ

○第三章 義務ノ期滿免除

商業會社ノ債主ヘ二個ノ訴權ヲ有ス第一。會社ニ對スル訴權即チ會社ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ爲スヲ請求スルノ權第二。各社員ニ對スル訴權各社員固有ノ財産ヲ以テ辨濟ヲナスヲ請求スルノ權是ナリ而シテ債主カ各社員ニ對シ有スル所ノ訴權即チ社員ノ義務ハ全社ノ種類ニ從フテ其効力一ナラサルナリ合名會社ニ於テハ各社員ノ義務ハ無限ナリ之ニ反シ無名會社ニ於テハ債主ハ各社員ニ對シ株金ノ未納金額ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マレリ又會社ノ債主ハ先ツ會社ニ對シ會社ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受ンコトヲ要求シ尙ホ不足ヲ生スルトキニアラサレハ社員ニ對シ其固有財産ヲ以テ辨濟ヲナサンコトヲ要求スルコ

ト能ハサルナリ
 斯ノ如ク會社ノ債主ハ二個ノ訴權ヲ有ス然レハ則チ訴權ノ期限ハ幾年ナルヤ語ヲ換ヘテ言ヘハ會社及ヒ社員ノ義務ハ幾年ノ後期滿免除ヲ以テ消滅スルヤ
 第一原則○會社ノ繼續スル間ハ訴權ハ三十年間有効ナリトス即チ民法第二千二百五十七條ノ規則是ナリ
 第二原則○會社解散ノ後ト雖モ尙ホ債主ハ會社ヲ代表スル所ノ遺財決算人ニ對シ三十年間決算人ノ保管スル會社ノ遺財ヲ以テ辦濟チナサンコトヲ要求スルコトヲ得ヘシ是レ亦民法ノ原則ニ據ルニ外ナラサルナリ又此二個ノ場合ニ於テ三十年ノ期限ハ訴權ノ生シタルヨリ起算スヘキモノトス
 遺財決算人ハ猶ホ目錄相續人ノ如ク遺財限リ負債ヲ辦濟スルニ止ル

ヘシ又定規ノ時日ヲ經過セサレハ辦濟ヲ初ムルコト能ハサルナリ然レトモ既ニ定規ノ時日ヲ經過シタル後ハ債主ノ要求ヲ爲スニ從テ之ニ辦濟チナサ、ルヘカラス而シテ既ニ悉ク遺財ヲ交附シタル以上ハ決算人ノ義務ハ消滅スルモノトス故ニ其後他ノ債主顯出スルモ該債主ハ決算人ニ對シテ要求ヲナスコト能ハサルナリ然レトモ既ニ若干ノ債主ニ對シテ辦濟ヲ終了シ尙ホ若干ノ遺財ヲ存スルニ當リ續テ他ノ債主ノ要求ヲ受ルコトナキヲ以テ決算人ハ此殘余ノ遺財ヲ各社員ニ分配セリト假定セヨ其後ニ顯出スル債主ハ辦濟ノ要求ヲナスコトヲ得ヘキヤ曰ク決算人ニ對シテハ要求ヲナスコト能ハス然レトモ社員ニ對シテハ要求ノ權利ヲ有スヘシ
 然レハ則チ此場合ニ於テ債主カ社員ニ對シテ有スル訴權ハ幾年間有効ナリヤ蓋債主カ社員ニ對シ其固有財産ヲ以テ辦濟ヲ受ルノ權利ハ

特別ノ短期限ニテ消滅スルコト下ニ陳述スルカ如シ之ニ反シ債主カ
 會社及ヒ決算人ニ對シテ有スル訴權ハ三十年間經續スルコト上ニ陳
 述シタルカ如シ今本問ノ場合ハ債主カ社員ニ對シテ訴權ヲ有スルニ
 在レトモ其ノ權利ハ社員ノ固有財産ヲ以テ辨濟ヲ受ケントスルニア
 ラスシテ社員カ受領シタル會社ノ遺財ヲ以テ辨濟ヲ受ケントスルニ
 アリ於是乎疑問起レリ曰ク債主ノ訴權ハ此場合ニ於テハ三十年ニテ
 消滅スルコト通常ノ期滿免除ノ如クナルヤ將タ特別ノ短期限ニテ消
 滅スルヤト余ハ答ヘテ此訴權ハ三十年間經續スヘシト云ハン蓋上陳
 ノ二原則ニ云ヘル如ク債主カ會社ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受ルノ權利ハ
 三十年間經續スヘキモノトス然ルニ本問ノ場合ニ於テ債主ノ要求ス
 ル所ハ則チ會社ノ財産ニ外ナラス然レハ則チ該二原則ノ趣意ニ從フ
 テ其權利ハ三十年間經續スヘシト云ハンハ豈ニ至當ノ說ニアラスヤ

其財産カ偶々社員ノ手ニ在ルヲ以テ該二原則ヲ適用スヘカスト云フ
 カ如キハ解スヘカラサルノ說ナリ且ツ夫レ社員ノ固有財産ヲ以テ辨
 濟ヲ受ルノ權利カ特別ノ短期限ニテ消滅スルハ特別ノ理由アルニ因
 レリ然ルニ其理由ハ本問ノ場合ニ於テアルコトナシ是レ亦本問ノ場
 合ニ於テ債主ノ權利ノ三十年間經續スト云ハサルヘカラサル所以ナリ
 (一千八百七十三年一月二十七日大審院判決)

第三原則○此第三原則ハ載セテ商法第六十四條ニ在リ曰ク決算人ニ
 アラサル社員其寡婦相續人又ハ代理人ニ對スル訴權ハ會社ノ期限終
 リタルトキ又ハ會社解散シタル時ヨリ五年ニテ消滅スヘシ但シ之カ
 爲メニハ會社ノ期限ヲ記載シタル會社契約書又ハ會社解散ノ証書ヲ
 第四十二條第四十三條第四十四條第四十六條ニ從ヒ貼附シテ公告シ
 及ヒ官署ノ簿冊ニ登記スルコトヲ要シ且ツ此等ノ法式ヲ行ヒタル後

ニ起訴アリタルカ爲メニ期滿免除ノ期限中絶セラレ、トナキヲ要ス
 今此原則ヲ適用スヘキ場合ヲ求ムルニ先ツ第一着ニ左ノ場合ヲ得ヘ
 シ爰ニ甲乙丙間ニ組成スル一ノ合名會社アリ其會社解散後ニ債主會
 社ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受ケタレトモ尙ホ不足ヲ生シタルニ依リ各社
 員ニ對シテ其固有財産ヲ以テ之ヲ償ハシメントスル場合はナリ此場
 合ニ於テハ第六十四條ヲ適用シ即チ債主ハ五年ニシテ其訴權ヲ失フ
 モノトス此規則ヲ此場合ニ適用スルハ實ニ至當ナリトス蓋シ此場合
 ニ此規則ヲ適用セスノ普通ノ規則ヲ適用シ債主ノ訴權ハ三十年間經
 續スヘシトスルトキハ社員ノ爲メニ甚タ嚴酷ニ過クルノ事情アルナ
 リ何トナレハ合名會社ノ社員ハ連帶無限ノ責任アリ此ノ如キ重大ノ
 負擔ニシテ三十年間經續スルトキハ社員ハ三十年間常ニ此ノ如キ重
 大ノ負擔アルコトヲ思ヒ心ヲ安ンシテ業ヲ執ルコト能ハサルヘシ是

レ既ニ頗ル苛酷ノコトダリ然レトモ其心ヲ安セサルハ暫ク之ヲ不問
 ニ措クモ十年二十年若クハ二十九年後ニ債主ヨリ辨濟ノ要求ヲ受ル
 ニ當リテハ社員ハ其自ラ負擔スヘキ部分ヲ負擔スルニ止マラスシテ
 他ノ社員ノ負擔スヘキ部分ヲモ負擔セサルヘカラサルノ不幸ニ遭遇
 スヘキコト必セリ何トナレハ會社解散後三四年間ハ未ダ概シテ各社
 員ノ資産ニ大變更ヲ來サ、ルヘキヲ以テ一社員他ニ代リテ負債ノ全
 部ヲ辨濟スルコトアルモ彼レ亦他社員ニ對シテ各自ノ負擔スヘキ部
 分ヲ請求スルコト容易ナリ斯ノ如クナレハ辨濟ヲナシタル社員獨リ
 大損失ヲ受クルカ如キヲナカルヘキナリ之ニ反シ十年二十年ノ後ニ
 至ルトキハ社員中曩ニ資産ヲ有シタル者モ無資力トナル者數多アラ
 ノ是レ實ニ免ルヘカラサル所ナリ然ラハ則チ資産アル社員ノミ獨リ
 辨濟ヲ引受ケサルヘカラスシテ自己ノ割前ノミナラス他ノ無資産ナ

ル社員ノ割前ヲモ併セテ負擔セサルヘカラス斯ノ如キハ決シテ至當ノ法ト稱スルコトヲ得サルナリ且ツ夫レ斯ル有様ナルトキハ世人又容易ニ合名會社ヲ建設セサルニ至ルヘシ國家ノ不幸ニアラスシテ何ソヤ是レ法律カ此場合ニ於テ特ニ短キ期滿免除ヲ設ケタル所以ナリトス

上ニ述ヘタル場合ニハ第六十四條ヲ適用スヘキコト確乎疑フヘカラサレトモ其他ノ場合ニ至リテハ疑ナキヲ得サルナリ即チ左ノ疑問起ルヘシ曰ク第六十四條ノ期滿免除ハ差金會社ノ金主及ヒ無名會社ノ株主即チ其醜出スヘキ金額ノ外ニ責任ヲ有セサル社員カ未タ其醜出スヘキ金額ノ全部ヲ醜出セサル場合ニ適用スルコトヲ得ヘキヤ(差金會社ノ擔當者即チ無限責任ノ社員ニ此規則ヲ適用スヘキコトハ猶ホ合名會社ノ社員ニ於ケルカコトク疑フヲ要セサルナリ)○例ヘハ爰ニ

差金會社ノ金主若クハ無名會社ノ株主アリ其株金五百法ヲ醜出スヘキニ會社ノ都合ニ因リ二百五十法ヲ醜出スルニ止リ未タ其殘金ヲ醜出セサルニ會社先ツ解散セリ此場合ニ於テ會社ノ債主ハ此金主又ハ株主ニ對シテ殘金二百五十法ヲ請求スルヲ得ヘキコト言フ待タサルナリ然ラハ則チ其債主ノ訴權ハ幾年間經續スヘキヤ此疑問ニ就テハ議論區々トシテ歸スル所ヲ知ラス余ハ左ニ諸說中最モ確實ナル二說ヲ述フヘシ

第一說此訴權ハ三十年間經續スヘシ

第一理由○第六十四條ハ例外ノケ條ナリ其特別短キ期滿免除ヲ設ケタル理由ハ實ニ合名會社々員及ヒ差金會社ノ無限責任ノ社員ヲ保護スルニ在リ何トナレハ此等ノ社員ハ無限連帶ノ責任アレハナリ故ニ苟モ無限責任ヲ有セサル社員ニハ例外ノ規則ヲ適用セスシテ普通ノ

規則ヲ適用スヘキコト至當ナリ

第二理由○第六十四條編制ノ時編制者ハ常ニ合名會社ヲ適例ニ用ヒタレトモ其他ノ會社ニ就テハ會テ言フ所ナカリキ是レ此規則ハ無限責任アル合名會社ニノミ適用スヘキカ故ナリ

第三理由○立法者ヨリ之ヲ見レハ差金會社ノ金主若クハ無名會社ノ株主ノ醜出スヘキ金額ハ其未タ之ヲ會社ニ納メサルトキト雖モ會社ノ財産タルヲ失ハサルヘシ故ニ此未納金額ニ對スル債主ノ權利ハ其會社ノ財産ニ對スル權利ノ如ク三十年間繼續スヘシ

第一說ハ論理貫通シテ自家撞着スルコトナク且ツ最モ事情ニ適合セリ然レトモ裁判例ハ此說ヲ採用セスシテ第二說ヲ採用シタリ

第二說株主及ヒ金主ハ會社解散ノ時ヨリ五年ヲ經過スルトキハ其義務ヲ免カルヘシ

第一理由○第一說ニ云フカ如ク合名會社ノ社員及ヒ差金會社ノ無限責任社員ノ責任ハ無名會社ノ株主及ヒ差金會社ノ金主ノ責任ヨリモ遙カニ重大ナルハ實ニ然リ然レトモ是ヲ以テ長期ノ期滿免除ハ株主及ヒ金主ノ爲メニ如何ナル迷惑ヲモ生スルコトナシトハ云フコト能ハサルナリ蓋シ株主及ヒ金主ハ其未タ義務ノ負擔ヲ免カレサル場合ニ於テ成ル可ク速カニ債主ヨリ辨濟ノ要求ヲ受ケサルヘカラサルノ位置ニ立ツ者ナリ請フ其ノ然ル所以ヲ說カン爰ニ一株五百法ノ株式アラシニ株主其半額即チ二百五十法ヲ拂込ミタルノミニテ會社解散セリト假定セヨ此場合ニ於テ株主ハ尙ホ二百五十法ヲ要求セラル、義務アルモノアリ此時ニ當リテ債主ハ會社解散後三四年間ニ要求ヲナセハ或ハ會社ノ遺財ヲ以テ之カ辨濟ヲナスコトヲ得タルヤモ未タ知ルヘカラス縱令ヒ然ラサルモ遺財ノ決算人ハ各株ニ付五十法宛チ

徵集シテ辨濟ヲ完結スルコトヲ得タルナラン然ルニ債主ハ數年間沈黙シテ嘗テ其債權ヲ有スルコトヲ申出ツルコトナク二十五年ノ星霜ヲ經ル間ニハ前社員中ニ資産ヲ失ヒテ又辨濟ヲナスコト能ハサル者數多アラシ故ニ資力アル株主ノミ辨濟ヲナスコト能ハサル者數多アラシ故ニ資力アル株主ノミ辨濟ノ責ニ當ラサルヘカラス於是乎彙ニハ五十法ヲ出シテ義務ヲ免カルヘカリシ者モ百法二百法ヲ出サ、ルヘカラス甚シキニ至リテハ其要求セラルヘキ金額即チ二百五十法ヲ悉ク出サ、ルヘカラサルコトアリ故ニ曰ク株主及ヒ金主モ亦成ルヘク速カニ辨濟ノ要求ヲ受ケサル可ラサル事情アリト

第二理由○第六十四條ハ各種ノ會社ニ就テ一モ區別スルコトナシ然ラハ則チ如何ナル事情アルモ社員中ニ區別ヲ立ルハ法律ヲ犯スノ所爲ニシテ許スヘカラサルモノナリ

第三理由○一千八百六十七年ノ法律中不定資本會社ニ就テ左ノ明文アリ曰ク社員中其意見ニ因リテ又ハ株主總會ノ決議ニ因リテ退社シタル者ハ退社ノ際ニ存シタル凡テノ義務ヲ五年間負擔スヘシ(第五十二條)ト而シテ此ケ條ニ付立法者ノ言フ所ヲ聽クニ曰ク退社員ノ爲メニハ其退社ハ恰モ會社ノ解散ノ如シト又曰ク五年ノ期滿免除ハ會社ニ關シテ普通ノ規則ナリト由是觀之第五十五條ノ規則ハ不定資本會社カ合名會社ニ屬スルト無名又ハ差金會社ニ屬スルトヲ問ハス何レノ場合ニモ適用スヘキ者ナリ然ラハ則チ一千八百六十七年ノ法律ノ精神ハ五年ノ期滿免除ヲ凡テノ會社員即チ合名會社員ノミナラス株主及ヒ金主ニモ適用スルニ在ルコト明瞭ナリト云フヘシ爰ニ又一疑問アリ曰ク五年ノ期滿免除ノ期限ハ何時ヨリ起算スヘキヤ

第一說ニ曰ク五年ノ期限ハ會社法式ニ從フテ解散ノ公告ヲナシタル

トキハ解散ノトキヨリ起算スヘシト
 第二説ニ曰ク五年ノ期限ハ公告ノ日ヨリ起算スヘシト但シ第一説ニ於テモ規定ノ期日即チ解散後三ヶ月ヲ過キテ公告ヲナシタルトキハ五年ノ期限ハ公告ノアリタル日ヨリ起算スヘキヲ勿論ナリトセリ
 余ハ以上ニ於テ専ラ社外人カ社員ニ對シテ有スル訴權ノ期滿免除ヲ説ケリ然レトモ社員モ亦互ニ相對シテ訴權ヲ有スルコトアリ然ラハ則チ此社員ノ有スル訴權モ亦五年ノ期滿免除ニテ消滅スルヤ曰ク然ラス社員相互ノ訴權ハ普通ノ規則ニ從ヒ三十年間繼續スヘシ蓋シ法律ノ説明書ヲ具テ此事明瞭ナルノミナラス道理上ヨリ云フモ五年ノ短期々滿免除ヲ社員相互ノ訴權ニ適用スルノ理由ハ毫モアラサルナリ第六十四條ニ曰ク決算人ニアラサレハ社員ニ對スル訴權ハ五年ニシテ消滅スヘシ云々ト故ニ第六十四條ノ短期期滿免除ハ決算人ニ適

用スヘカラサルモノナリ然レトモ所謂決算人ハ社外人ヲ以テ之ニ充ツルト社員ノ中自ラ之ニ當ルトノ差別アルヲ以テ此差別ニ從ツテ論セサルヘカラス第一。社外人ヲ以テ決算人トナシタルトキハ此決算人ニ對スル訴權ハ第六十四條ノ規定スル所ニアラス故ニ普通ノ規則ニ從ヒ三十年間繼續スヘシ第二。社員ヲ以テ決算人トナシタルトキハ債主ハ幾年間此社員ニ對シテ要求ヲナスコトヲ得ヘキヤ是レ少シク論セサルヘカラス其決算人カ會社ノ遺財ヲ保管スル間ハ債主ハ之ニ對シテ三十年間訴權ヲ有スヘキコト言ヲ待タサルナリ然レトモ彼レ既ニ遺財ヲ悉ク債主ニ交附シ了リタルトキハ債主ハ之ニ對シテ尙ホ三十年間要求ヲナスコトヲ得ヘキヤ余ヲ以テ之ヲ觀レハ五年ヲ經過シタル後ニ於テ債主ハ要求ヲナスコト能ハスト云フチ至當ト思考ス或人之ヲ難シテ曰ク第六十四條ハ例外ノ箇條ナリ故ニ成ルヘク其適用

ヲ狭クシ苟モ其文字中ニ包含セサル場合ニハ皆普通ノ規則ヲ適用セサルヘカラス然ルニ第六十四條ニハ決算人ニアラサル社員云々トアリ故ニ決算人ノ任ヲ帶ル社員ハ第六十四條ノ外ニアル者ナリ即チ普通ノ規則ノ支配ヲ受クヘキ者ナリト嗚呼何ソ其説ノ無稽ナルヤ若シ此説ヲノ正當ナラシメハ第六十四條ハ全ク無用ノ條タランノミ何ヲ以テ之ヲ云フ蓋シ彼ノ決算人ノ任ヲ帶ヒタル社員ニシテ債主ノ要求ニ遭ヒ其固有財産ヲ以テ辨濟ヲナシタルキハ必ス直チニ他ノ社員ニ對シテ各自ノ割前ニ相當スル金額ノ償還ヲ要求スルナラン是レ必然ノ事ナリ然ルニ此要求ハ社員相互間ノ要求ナルカ故ニ此要求ハ三十年間消滅セサルヘシ而シテ他ノ社員ハ五年ノ後ニ至レハ直接ニ債主ヨリ要求ヲ受クルコトナキモ其實ハ三十年間負擔ヲ免カレサルモノナリ苟モ此ノ如クナレハ第六十四條ノ効用ハ何クニアリヤ寧ロ之ヲ削ル

ノ優レルニ如カサルナリ抑モ第六十四條ニ於テ決算人ノ任ヲ帶ル社員ト決算人ニアラサル社員トヲ區別シタル理由如何ト問フニ余ヲ以テ之ヲ觀レハ決算人ノ任ヲ帶ル社員ハ二個ノ資格ヲ有セリ即チ社員タルノ資格及決算人タルノ資格是ナリ社員タルノ資格トハ彼レ固有ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ爲サルヘカラサルノ場合是レナリ又決算人タルノ資格トハ彼レ其保管スル會社ノ遺財ヲ以テ辨濟ヲナスヘキ場合はナリ其社員タルノ資格ヨリシテ之ヲ觀レハ此社員ハ他ノ社員ノ如ク第六十四條ノ所謂決算人ニアラサル社員ノ中ニ入ルヘシ故ニ其義務ハ五年ニテ消滅スヘシ又其決算人タルノ資格ヨリシテ是ヲ觀レハ彼レ第六十四條ノ外ニ在リ故ニ其義務ハ三十年間繼續スヘシ蓋シ第六十四條ハ此區別ヲナシテ之ヲ解散セサルヘカラサルナリ且ツ夫レ或人ノ説ニ從フトキハ社員ニシテ決算人トナルトキハ五年ノ期滿免

除ノ利益ニ浴スルヲ能ハサルヲ以テ常ニ社外人ヲ以テ決算人トナスニ至ルヘシ夫レ社員ヲ以テ決算人トナストキハ給料ヲ與フルコトナク又ハ僅少ノ給料ヲ與フルヲ以テ足レリトス然レトモ社外人ヲ雇フトキハ相應ノ給料ヲ與ヘサルヘカラス然ラハ則チ或人ノ説ハ止マ社員ヲシテ冗費ヲ負擔セシムルノ結果アルノミ豈ニ奇怪ノ説ニアラスヤ

佛國商社法要義畢

明治二十三年一月十八日印刷
全 年全月廿四日出版

法律雜誌發行人

發行人

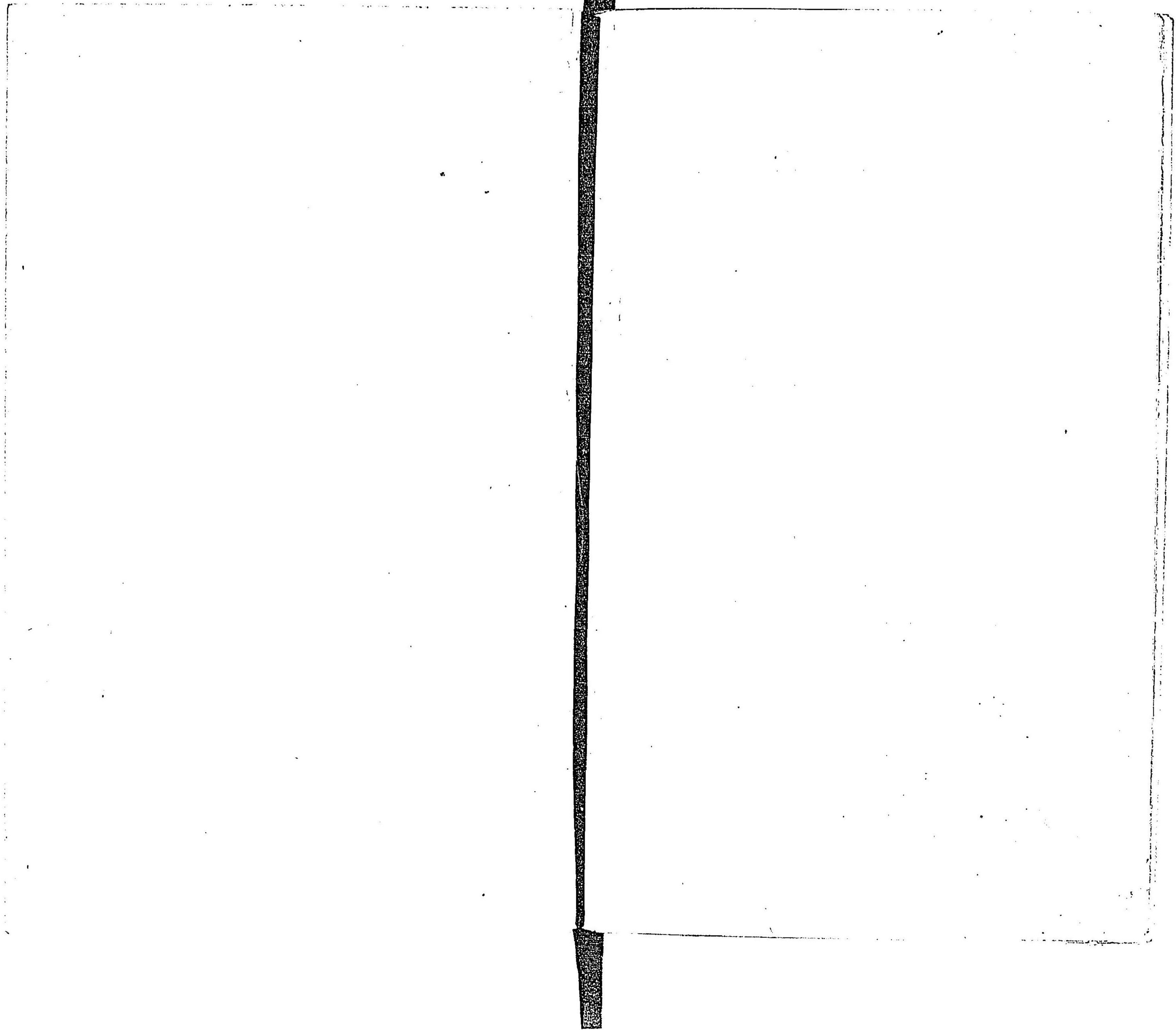
薩 埴 正 邦


東京市京橋區山下町六番地寄留

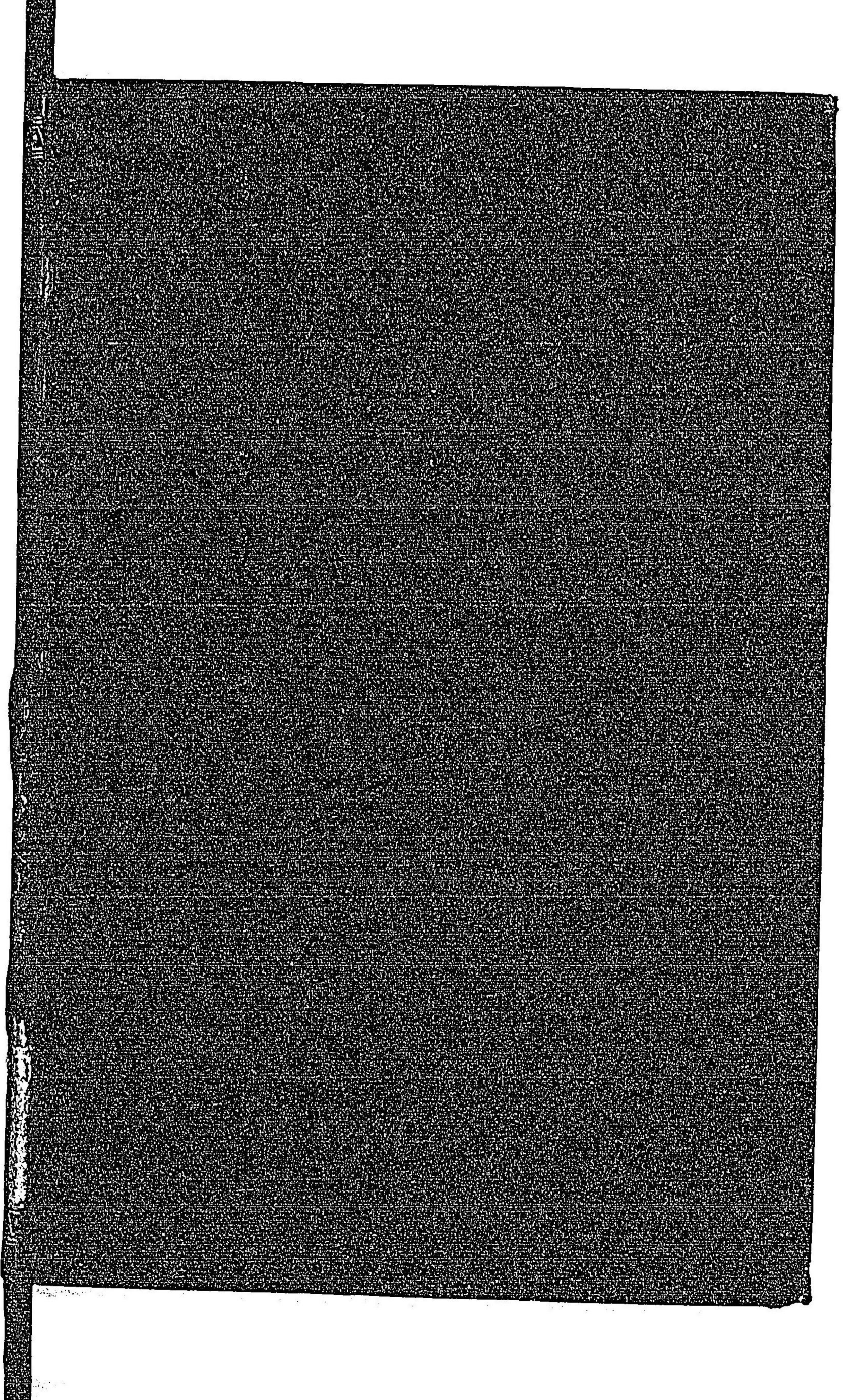
印刷人

宇 津 木 信 夫

東京市京橋區山下町六番地



17

249





035410-000-0

17-249

仏国商社法要義

ジェー・アッペール／述

M23

BBO-0595



